

Nicene Creed

ニツシン クリード

知っておきたいキリスト教のことば (155)

ニケヤ信経 にけやしんきょう

「わたしたちは、唯一の神、全能の父、天地とすべて見えるものと見えないものの造り主を信じます。」

これは、聖公会の教会で用いられている「ニケヤ信経」の冒頭部分です。聖餐式の説教の後で、会衆と共に唱えます。これはカトリック教会やプロテスタント教会でも用いられ、カトリック教会では「ニケア・コンスタンチノーブル信条」、また多くのプロテスタント教会では「ニケア信条」と呼ばれています。

イエス様が十字架上で息を引き取られて 300 年近くが経った頃、キリスト教の中には様々な考え方が出てきました。特に父である神さまと子なるイエス様の関係や、父・子・聖霊のことなど、聖書に明確に書かれていないところをどう理解していくかについて、理解がわかれていきました。

そこで教会は「公会議」を開き、教義を明確にすることになります。325 年に第 1 ニカイア公会議がおこなわれ、キリスト教の基本信条が決められていきました。そのときに採択された信条を、「原ニカイア信条」と呼びます。ここでは、父と子は「同質(ホモウシオス)」であることが確認されました。

さらに 381 年には第 1 コンスタンティノポリス公会議がおこわれ、原ニカイア信条が修正され、聖霊についての一文が追加されました。このときに、三位一体論が公式に採択されます。そしてここで改訂された信条を、日本聖公会では「ニケヤ信経」として礼拝の中で用いています。

ただこの信条が作られた目的の1つとして、「異端を排除する」というものもありました。アリウス派やサベリウス主義などといった「異端」と呼ばれたグループが、この信条を通して排斥されたということも、忘れてはならないと思います。

次回は「二種陪餐」です。お楽しみに。



「聖ゲオルギオス大聖堂」
(コンスタンディヌーポリ)

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。

(ヨハネによる福音書 1 章 1~2 節)

